

鈴木貫太郎 すずき けんたろう 海軍軍人、政治家。慶應二年十一月二十四日和
 京誕生れ、昭和二十二年四月十七日歿（六七一五四）。海軍兵學校、
 海軍大學校卒。日清・日露戦争に従軍し、のちドイツ駐在。大正二年
 海軍次官となり、シーメンズ事件後の海軍肅正に當る。十二年大將、
 翌年聯合艦隊長官、次で軍令部長、侍從長兼樞密顧問官歴任。昭和十
 一年（一・二六事件）に遭ひ重傷。十九年極密院議長、二十年四月内閣を
 組織、主戦派を抑えてポツダム宣言を受諾し、無條件降伏と共に總辭
 職した。

著書 警察 幹部 幹部 幹部 『治安官館講話録』（△日著・内務省警保局編、昭和十四年五月）
 『二十一年警察協會』（『御躬徳心就く』（昭和十五年九月十五日 東京地方）
 産業報國聯合會）、『今上陛下御日常の一端』（昭和十五年七月二十
 日教諭局「教諭叢書」。再刊・十六年八月海軍兵學校「訓育資料」）、
 『終戦の表情』（昭和二十一年八月一日労働文化社「月刊労働文化別
 冊」）等。文獻、伊藤全次郎著『名將・鈴木貫太郎』（昭和十九年八
 月十八日春陽堂）、鈴木武編著『奴才の中の太陽』（昭和四十四年八
 月十五日鈴木貫太郎首相秘録編纂委員会）、小堀桂一郎著『宰相鈴木
 貫太郎』（昭和五十七年八月十五日文藝春秋）等。

